

# はじめに

この教科書は「子ども」と触れ合うすべての人、子どもにかかわり、子育てを支援する専門家を目指す人達に、必要な広範な知識（文部科学省－教育心理）、厚生労働省－（保健、保育）の最新の情報を含めまとめたものです。保健師、看護師、幼稚園教員、保育士、子ども心理士がお互いにかかわりあう知識をまとめて学んで欲しいと願い、第6版では保健以外の部分を含めて新刊としてリニューアルしました。

子ども達は、①からだもこころも思春期まで発育し続ける、②その発育のスピードは両親の遺伝子の組み合わせで、両親に似た発育をするが、生育環境により影響される。③家庭・教育・地域などの環境が一人ひとり違うので発育が異なり、比較しないことが大切である。連続している発育を経時的に観察することは必要で、停止したり遅れたりするのは異常な状態と理解する。年齢が同じであっても、からだやこころの発育は個々に違うため見かけ上、大きな幅があることと理解してほしい。子ども同志を比較して悩む親が多いのです。

第1章には序論では子どもの疫学、心理・環境・福祉のかかわりについて、家庭、社会の役割を、第2章には保健（発育）、第3章では栄養環境、第4章では子どもの心理、知能、情緒、社会性の発達とその役割、第5章では子どもの生活、第6章では集団の保健、第7、8章では病気、症状と救急（保健）について、第9章は保健と福祉制度（行政）、第10章では子どもの事故の現状について、各執筆者に、表現は優しく、内容は高いレベルで記述し、子どもを支援する職業を目指す人達に理解できるようにお願いした。看護に、保育に必要な福祉制度等も理解して貰えるように期待している。

この本を使用された皆さんが目的への道を選択して、「子ども達に笑<sup>え</sup>顔<sup>がお</sup>を、親に微笑<sup>ほほえみ</sup>を」与えていただくようにお願いします。

平成25年3月吉日

澤田 淳